

【自己評価の基準】 A:十分達成できた B:概ね達成できた
C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

1 今年度の取組と自己評価

今年度の学校評価アンケートでは、学習指導、進路指導、生活指導の各領域の教育活動で肯定的回答の割合が昨年度より増えており8割以上の項目が多くなっている。学校生活全般への満足度も約9割であった。

各項目のアンケート結果及び具体的な取組は以下のとおりである。

項目	学校生活に満足している 地域：良い学校だと思うか			小松川高校に入学してよかった	
回答者	生徒	保護者	地域	生徒	保護者
令和7年度	90%	90%	90%	88%	94%
令和6年度	88%	90%	86%	86%	94%

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導 達成度 A

＜目標＞ 「授業で勝負」を合言葉とし、質の高い学習指導に向けての授業改善を推進する。

＜方策＞

- ① 新学習指導要領の理念を全教員で再確認し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組む。生徒の思考力育成に向けて、考えさせる発問やアウトプット（書く、話す、話し合う、発表する）を積極的に取り入れる。
- ② 課題、補習、小テスト等により基礎・基本の定着を図る。学習課題については内容の精選と教科間で調整を行い、生徒がその目的を理解し、主体的・計画的に取り組めるようにする。
- ③ 教材の共有化、定期考査の共通化など、個々の実践を積極的に共有し組織的な取組につなげる。
- ④ 「総合的な探究の時間」の理念と指導法を全教員で共有し、PDCAマネジメントサイクルを通して質の高い内容に仕上げていく。
- ⑤ 2年次の「課題研究」において、1、3学年の担任を除く、全教員（管理職、非常勤教員、JETを含む）で指導にあたる。
- ⑥ 年2回の「授業見せ合い月間」や生徒による授業評価を活用し、教科ごとに授業改善に取り組む。
- ⑦ 英語の4技能をバランスよく育成するために、CAN-DOリストを中心として、本校英語教育のスタンダードを確立し、GE-NET EE指定校としての役割を果たしていく。
- ⑧ デジタル技術を活用した教育の推進を図るため、ICT環境の利活用として、無線LAN（Wi-Fi）の利用や、「Microsoft Office 365」（Teams等）、ClassiNoteを全学年で活用する。
- ⑨ 図書館へ複数配布される新聞や「総合的な探究の時間」を活用し、主権者教育及び消費者教育を推進する。
- ⑩ 図書館、学年、教科の連携を通して、生徒の読書活動を推進する。

＜取組・自己評価＞

項目	授業をととして進路希望 を実現させるのに必要な 学力が身につけている		授業の内容は 分かりやすい	授業は学習意欲の 向上を図る工夫が なされている	生徒一人ひとりの 理解度に応じた指 導がなされている	教員は授業の内容 への質問に分かり やすく答えている
回答者	生徒	保護者	生徒	生徒	生徒	生徒
令和7年度	82%	79%	87%	80%	70%	94%
令和6年度	76%	70%	81%	70%	64%	91%

- ① 多くの授業（92.5%）において、ペア学習やグループ学習を通じた話し合いの時間や自分の考えを発表する機会を設けている。

「総合的な探究の時間」を始め、教室内や学年単位でのプレゼンテーション等を行ったり、日々の授業においてTeamsを活用し、事前に提出した課題を生徒本人が授業内で解説するなど、生徒が自身の学びを共有したりした。

- ② 学年毎に重点的に指導に取り組む科目を精選し課題量の調整を図っている。「課題は進路実現に役立つか」の肯定回答が79%（昨年度68%）であった。
- ③ 教材や指導方法など個々の実践の共有ができる授業見せ合い月間を推進した。時間講師との実践の共有は今後の課題である。
- ④ 「総合的な探究の時間」では、探究部が中心となり1、2学年において、毎時間の授業案とワークシートにより、「探究入門」「進路探究」「理数探究」「国際理解探究」を実施した。
- ⑤ 2年次の「課題研究」は、全教員がコーディネーターとして指導に当たり、生徒全員が中間発表と本発表Ⅰに取り組み、研究概要を提出した。

授業での対面指導の他、授業外ではTeamsを活用し、各コーディネーターと生徒とがコミュニケーションをとりながら準備を進めた。本発表Ⅱには、1学年も参加し、質の高い研究発表を学ぶ機会を設けた。本

発表Ⅱでは他校からの視察も受け入れた。

- ⑥ 「見せ合い月間」を活用し、互いの授業を積極的に観察し個々の授業改善への気づきを促した。参観者が学校サーバー共通フォルダに提出した参考にしたい点を記した記録は、教職員は閲覧することができるため、時間割の都合により実際に参観できない授業についての情報も共有できる環境を整えた。
- ⑦ 1学年は4月にTOKYOグローバルゲートウェイ（TGG）での半日研修に参加した。
授業において、JETやALTを活用し、学期毎にスピーキングテスト、パフォーマンステスト、ライティング指導を実施した。
スピーキング力についてはオンライン英会話も活用し向上を図った。英検（S-CBT）の総得点平均は、英語圏における社会生活（日常・アカデミック・ビジネス）に必要な英語を理解し使うことができるレベル相当（CEFR B1レベル）となり昨年度より向上した。
- ⑧ Teamsによる連絡事項・課題配信・オンライン授業等を全学年が活用した。家庭との連絡についてはClassiを活用した。
「定期考査採点・分析システム」・「統合型校務支援システム」について校内研修を実施し、定期考査の分析方法として箱ひげ図を取り上げ、教科指導での活用を検討した。
- ⑨ 全国紙6紙を図書館と廊下に配置するとともに、利用促進を図るため「新聞の気になる記事」を取り上げた資料を作成し日々更新した。
主権者教育については、「総合的な探究の時間」において、関連テーマで研究発表をしたグループもあった。また、江戸川区選挙管理委員会による平井駅前での街頭啓発活動や模擬投票を含む主権者教育講座を実施した。
消費者教育については、家庭科の授業において推進し、日頃の学びの成果として東京都消費生活総合センター主催「STOP！若者の消費者トラブルCMシナリオ・動画コンテスト」に履修生徒全員が取り組み、4名が入賞した。
- ⑩ 図書館と連携した授業については、「総合的な探究の時間」での利用が多かった。
資料の貸出数は一日平均9.5冊（2月末）と昨年度より減少しているが、学年別では朝読書を実施した1学年の貸出数は2学年の2倍以上3学年の3倍以上となった。分類別にみると社会科学と文学が多く、1学年は文学、3学年は社会科学分野の貸出が最も多かった。

イ 進路指導 達成度 A

<目標> 進学指導特別推進校として、本校独自の進路指導計画「ウィンズプロジェクト」を核とし、入学時点から3年間を見通した小松川の進路指導を進路指導部が中心となって推進し、塾・予備校に頼らず、高い目標を持たせた生徒の進路実現につなげる。

<方策>

- ① 東大、東京科学大、一橋大、京都大、国公立大医学部及び国公立大学を目指す全生徒の進路実現を目指し、進路指導部と学年が連携した出願指導を行う。
- ② 入学時から生徒と保護者に東大を含め旧7帝大、東京科学大、一橋大、国立大医学部の難関大の魅力や良さを情報提供し、目標となるように進路部が中心となって、生徒・教員・保護者とともに学校の雰囲気づくりを醸成していく。
- ③ 2年次から、高い志望を持たせるための「第一志望宣言」を2学年12月に提出させる。
- ④ 大学入学共通テスト、英語外部認定試験、総合型選抜及び学校推薦型選抜等の情報を組織的に共有する。
- ⑤ 個別最適化の学びを実現できるようにClassiやClassiNoteを活用する。面談計画に基づいた面談を実施し、生徒が安心して学べる環境づくりを推進する。
- ⑥ 模試結果データに基づいた資料を活用し、最後まであきらめさせない指導を行う。模試分析会に、学年及び教科主任、教科担当者が悉皆で参加し分析を行い、生徒に情報を還元する。特に3年生では出願指導検討会を年6回行い、出願指導等に活用する。
- ⑦ 進路行事への保護者参加や三者面談の実施を通して保護者と連携した進路指導を展開する。
- ⑧ 長期休業期間中の講習について、予備校や塾に頼らないことを前提にして、計画・実施する。
- ⑨ 「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒間で共有させ、家庭学習を一層促す。
- ⑩ 自主学習を支援するため、放課後に自習できる環境（教室・コマホール）を保証する。
- ⑪ 実用英語技能検定等の受験を促し、生徒の英語力の向上を図る。
- ⑫ 「総合的な探究の時間」などでの探究活動により、課題発見力、創造的・論理的思考力を養う。

<取組・自己評価>

項目	学習課題は進路希望を実現させるのに役立っている	補習・講習は進路希望を実現させるのに役立っている		学校は生徒自主学習を支援している		進路指導は進路希望を実現させるのに役立っている	
回答者	生徒	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
令和7年度	79%	86%	94%	88%	92%	88%	91%
令和6年度	68%	80%	83%	78%	80%	83%	75%

項目	生徒に個性や適性等、自己への理解を深めさせている		進路に関する情報が十分に提供されている		二者面談・三者面談・進路面談は進路実現に役立っている	
回答者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
令和7年度	78%	82%	93%	90%	87%	89%
令和6年度	69%	63%	91%	79%	81%	64%

- ① 国公立大合格者は、71名（昨年度74名）とほぼ昨年度並みであったが、東大1名、東京科学大（旧東工大）3名、一橋大3名、信州大医学部医学科1名の合格者を出し、難関国公立及び医学部医学科現役合格者数8名と昨年度（4名）を大きく上回る結果となり、進学指導特別推進校としてのミッションを達成することができた。
- ② 旧7帝大、東京科学大、一橋大の難関大の魅力や良さを知ってもらうために、1、2学年に名古屋大学の大学説明会及び23大学と連携し大学模擬講義を実施した。
- ③ 2学年の12月に高い志望をもたせるための「第一志望宣言」を保護者と共有し指導に当たった。
ウィンターセミナー（勉強合宿）を企画し160名の希望者が2泊3日の合宿に参加し、80%以上が参加について肯定的回答をしている。、生徒・教員・保護者の共通理解のもと、高い目標をもって3学年0学期から大学受験を意識させることができた。
- ④ 進路部会には各学年進路担当も参加し、分掌学年間の情報共有及び学年間の情報の共有を図った。
- ⑤ 予定されていた三者面談及び二者面談の他、面談ブースでICT端末を活用した面談、教科担当者による面談、面接指導等を実施した。
- ⑥ 卒業生の学力推移と合否結果を分析し、千葉大学に目標を定めた模試における数値を全学年で共有し指導に当たった。1、2学年については、模試毎に分析会を実施し、各教科が設問毎の分析を行い、具体的な授業改善につながるよう、学年及び教科担当者で共有した。3年生については、気力体力のピークが共通テストに合うよう、学年集会、個別指導、特別時間割の導入など行った。
第一志望校への挑戦や国公立大学後期試験まであきらめずに挑戦するという指導の成果が見られた
- ⑦ 第一志望宣言の共有、三者面談、進路講演会の他、保護者会においては進路指導部からの情報提供を行い、家庭と学校とが一体となった進路指導を行った。
- ⑧ 夏期講習80講座（3学年56、2学年10、1学年14）を実施し、申込者は延べ2593（昨年度2369人）人であった。2学年対象のウィンターセミナーは2泊3日外部施設で実施し、160人（昨年度110人）参加した。
- ⑨ 入学直後のスプリングセミナーを校内で実施した。進路指導部から「高校での学びについて」、国語科、英語科、数学科から学習方法について説明を行い、「学ぶ意義」について理解させ学習へのモチベーション向上につなげることができた。
- ⑩ コマホール（旧定時制食堂）を始業前7時30分から終業後19時まで開放するとともに、会議室で学習支援員による個別・グループ指導を行った。部活動終了後に利用する生徒も多かった。
- ⑪ 都教委による受験費用支援を活用し、英検（S-CBT）を活用している。総得点平均は、英語圏における社会生活（日常・アカデミック・ビジネス）に必要な英語を理解し使うことができるレベル相当（CEFR B1レベル）となり前年度より向上した。
- ⑫ 「総合的な探究の時間」などでの1学年の探究活動の成果として学年代表生徒がTIPSフォーラムにおいてポスター発表を行った。

ウ 生活指導・健康教育 達成度 B

<目標> 社会人としての規範意識を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。また、生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう学習環境を整備する。

<方策>

- ① 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を指導方針とし、全教員による一致した生活指導を行い、社会人としての規範意識を身に付けさせる。チャイム始業の徹底はこれまで通り継続する。
- ② 時間厳守の基本である登校時間について、予鈴までの登校を徹底し、生徒の遅刻防止につなげる。
- ③ 計画的・継続的な服装・頭髪指導等の身だしなみや校内外での挨拶励行の指導を継続する。
- ④ 交通ルールの遵守と自転車事故防止に向けた交通安全指導を行う。また、登下校時のマナーやSNSに関するモラルに関する指導、スマートフォンの適切な使用の指導も継続していく。
- ⑤ 体罰の禁止・根絶についての未然防止・早期発見・早期対応を図る。

- ⑥ 毎月の教育相談連絡会を活用し、生徒の長期欠席やいじめを未然防止する。
- ⑦ 「SOSの出し方に関する教育」をホームルームや学年集会などで行い、SOSを出しやすい環境を作る。
- ⑧ 校内美化活動、ごみの分別、リサイクル活動の充実を図る。
- ⑨ 授業日の登下校時以外は校門を閉鎖し、生徒の安全・安心に努める。

＜取組・自己評価＞

項目	服装や頭髪等、身だしなみに関する指導がなされている		挨拶や時間順守等、基本的な社会規範を守る態度を育てている		登下校時の交通安全や自転車の事故防止の指導がなされている	
回答者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
令和7年度	91%	90%	91%	94%	97%	97%
令和6年度	85%	83%	86%	88%	92%	84%

- ① 生徒はチャイムと同時に授業に集中して取り組んでおり、チャイム始業は問題なく行えた。
- ② 遅刻者の1日平均人数については7.6人となり、目標の3人を下回ったが、昨年度の18.1人からは大きく改善された。1学年の朝読書の取組が一定の成果につながった。
- ③ 身だしなみ指導、挨拶励行については、本校生徒としての自覚と誇りともち行動するよう指導を行った。
服装については、学校評価アンケートに寄せられ生徒の意見を踏まえて、生活指導部と生徒と相談しながらルールの見直しを検討している。
- ④ 登校時には生活指導部による安全指導・登校指導を実施している。令和8年4月から自転車にも適用される交通反則通告制度を踏まえ、始業式・終業式時及び放送による呼びかけを行った。年度当初には自転車通学時の事故が発生しやすいため、引き続き安全指導を行っていく。
SNSに関するモラルに関する指導は、学年集会、ホームルーム、放送による講話などを生活指導部、学年が連携し行った。
- ⑤ 服務事故防止研修等により理解を深めるとともに、授業評価アンケート及び学校評価アンケートに寄せられた生徒及び保護者の声の共有と授業観察等を行い、指導方法の改善を図った。
部活動については、顧問アンケートの実施及び管理職の巡回により部活動指導員による指導と生徒の活動状況を確認した。
- ⑥ 教育相談連絡会では専門医（精神科）及びスクールカウンセラーからの助言を参考に見通しをもった支援計画を立てることができた。
保護者のスクールカウンセラー利用により、スクールカウンセラー、学校、家庭が連携して生徒の支援を行うことができた。
- ⑦ ホームルームや学年集会の他、スクールカウンセラーによる発信(通信)を行った。
- ⑧ ごみ分別等を保健委員の生徒が主体的に呼びかけた。
生徒が主体となり実施する行事においては、実行委員会生徒の呼びかけもあり利用後の状況に改善が見られるなど、美化行動への意識が高まった。
- ⑨ 原則生徒の登校時間後は校門を閉門した。
敷地内の出入りを把握するため、民間企業と連携し骨格認識システムを試行したが、十分な成果が見られず、導入には至らなかった。
来年度に向けた防犯カメラの増設や角度の調整等を行い、安心安全な環境を目指した。

エ 特別活動・体力向上 達成度 A

＜目標＞ 特別活動での取組みを通して、人間として成長させる。

「本物を見る・本物に触れる」ことを通して、知的好奇心を引き出し能動的な学習につなげる。

＜方策＞

- ① 学校行事全体の活性化を進め、全校生徒の成就感や達成感を高める。
- ② 海外修学旅行について、前年度の成果と課題を共有し改善を図るとともに、次年度以降の実施に向けた検証を行う。
- ③ 部活動においては、技能や記録の向上等、個々の生徒が目標を達成することや、思いやりの心や自主性・社会性を養い、豊かな人間関係を構築することを目指した活動を行う。
- ④ 部活動は学習との両立を基本とし、合理的かつ効率的に実施する。また、地域貢献ボランティア活動「1クラブ一善運動」に取り組む。
- ⑤ 理数研究校として、校内・校外での本物体験を推奨し、科学の甲子園やコンテスト等へも参加する。
- ⑥ 年4回の避難訓練、防災訓練、生徒による防災支援隊を通して、自助・共助の意識を高める。地域の町会からも積極的に参加していただき、地域との連携をより強化した防災教育を実践する。
- ⑦ 体育の授業や部活動を通して体力向上を図る。体力テストにおいて、すべての学年で全国平均以上となるようにする。

<取組・自己評価>

項目	本校の三大行事（体育祭・文化祭・合唱祭）に満足している		部活動は充実している		学習と部活動と両立できている	
回答者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
令和7年度	90%	96%	92%	92%	76%	77%
令和6年度	88%	92%	87%	85%	66%	73%

- ① 昨年度に引き続き、熱中症予防対策のため、体育祭を冷房完備の屋内施設ひがしアリーナで実施した。
当日視察に来た他校が来年度同施設で実施するなど、参考となる事例となった。来年度も引き続き屋内で実施する。
今年度の文化祭には3年生も参加し来場者は4,043人（昨年度3671人）と大幅に増加した。Xでの配信を取り入れたことが功を奏した。
- ② 11月下旬に台湾修学旅行を実施した。現地で生徒は台湾語、日本語、英語の3つの言語を駆使して台湾市立松山高級中学の生徒は交流を深めた。翌週が期末考査であったため、スケジュールについては見直す必要がある。
- ③ 部活動への肯定的回答の割合も高く、学習との両立を基本とした合理的な活動が実施できた。
「1部活動一善運動」では、地域清掃の他、地域でのコンサート、小中学生対象の運動や理科実験体験など、32部（昨年度24部）の部活動が地域貢献活動を実践した。
- ④ 理数研究校の取組として博物館・民間研究所・理化学研究所などの6つの施設見学、校外での3回の発表活動の他、大学教授による実験講習会や防災科学技術研究所の研究員による講演会などを実施した。
- ⑤ 防災訓練では地震対応、水害を視野に入れた訓練、火災対応の避難行動訓練、江戸川消防署小松川出張所講話の他、1学年対象の火災発生を想定した訓練を実施した。
被災時の利便性を考え本校敷地内にある江戸川区防災倉庫の場所を変更した。
- ⑥ 新体力テストの結果は、東京都平均を上回り全国平均並みであった。運動能力賞対象者は昨年度より46人増え211人であった。

オ 募集・広報活動 達成度 C

<目標> 総務部を中心とした全校体制での魅力発信により応募倍率の向上に取り組む。

<方策>

- ① 本校の特色ある教育活動の魅力を伝えられるよう全教職員で共通理解し、広報活動に取り組む。
- ② 生徒の活躍（学習、行事、部活動等）は一両日中に学校ホームページに掲載し、日常の学校生活の情報提供に努める。特に部活動については定期的な発信の他、大会等への参加について積極的に発信する。
- ③ 新入生・中学生・保護者等のアンケート結果を分析し、効果的で効率的な募集・広報活動に向けて改善を図る。
- ④ 学習塾等への組織的な訪問を行い、本校の特色ある教育活動を伝え、募集・広報活動を推進する。

<取組・自己評価>

項目	教育活動に関する情報提供をホームページ等で十分に行っている	小学校訪問や地域の祭に参加していることを知っている	
回答者	保護者	保護者	地域
令和7年度	88%	81%	77%
令和6年度	87%	61%	48%

- ① 学校説明会等、年間の訪問者総計は4608人(前年度4397人)であった。
映像研究部制作の学校紹介動画、生徒会生徒による受検対策及び学校生活紹介、PTA主催の保護者目線での学校紹介は特に好評であった。
6月に体育館で実施した回については、本校の空調機能が十分ではなく、来校者アンケートに施設面での苦情もあった。次年度以降、実施時期及び会場について見直しを検討する。
- ② 令和2年度以降休止状態であったXIは、文化祭を期に今年度9月以降再開し70回発信した。
ホームページは343回更新した。108期生の学校生活のページは好評であり、他学年保護者から同様の発信を求める声があった。発信が乏しい学年や部活動もあり、次年度以降、改善に向けて重点項目として取り組む必要がある。
- ③ 過去五年間の来校者数の推移及び中学校の行事日程を踏まえた今年度の説明会参加者数の分析を行った。
中学校の定期考査期間の説明会参加者数への影響を鑑み、次年度の実施時期の見直しを行った。
- ④ 塾への訪問の他、塾からの問い合わせに応じた塾生の学校見学、塾長の学校見学(授業見学)を実施した。
次年度以降、訪問教員数を増やすなど、塾への広報活動を重点的に行っていく。
- ⑤ 予定していた取組は概ね達成できているが、入試倍率の改善には至らなかった。東京都中学校長会進路対策委員会による出願予定倍率0.87倍から大きく持ち直したものの、推薦に基づく入学者選抜は1.45倍（目標2.5倍）、学力検査に基づく入学者選抜は1.17倍（目標1.5倍）にとどまった。

力 学校運営・組織体制 達成度 B

<目標> 「チーム小松川」として、協力して新しい時代の学校を創り上げていく職場環境作りを進める。

<方策>

- ① ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて、校務を効率化し、月2回以上の定時退勤を徹底する。
部活動指導員・外部指導員の活用、会議時間の短縮、およびICTの有効活用を進め、働き方改革につなげる。
- ② チューター制度等による新規採用教職員への支援と育成を行う。
- ③ 探究部を中心として、学校が直面する課題をとりまとめ、全教員で校内研修を行う。
- ④ すべての分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行う。
- ⑤ 施設・設備の管理・保全と迅速な補修に努め、安心安全な学習環境の整備を行う。
- ⑥ 経営企画室において、経営参画ガイドラインを活用して、資質・能力と経営参画意識の向上を図る。
- ⑦ 服務事故ゼロを目指し、服務事故防止月間（年度当初・前期・後期）の他、「使命を全うする」「ふくむニュース」を活用した企画調整会議及び職員会議での注意喚起、入試業務前のヒヤリハット研修を行う。

<取組・自己評価>

項目	学校の施設・設備は充実している	
回答者	生徒	教員
令和7年度	55%	36%
令和6年度	46%	24%

- ① 定時退勤は昨年度並みであった。一部の委員会において実施した紙面開催は一定の効果があった。
終業後19時までの生徒の自主学習支援を維持するために、次年度以降、校内体制を見直す必要がある。
- ② 新規採用教職員については、若手教員育成担当非常勤教員、指導教員、チューターが役割に応じて支援を行った。今年度の新規採用教員については、次年度はチューターとして活用する予定である。
- ③ 校内研修については、教務部が0365について、生活指導部がチームビルディングについて実施した。
探究部からは課題として「総合的な探究の時間」課題研究の在り方について提案があり見直しに着手した。
- ④ 年度当初の組織目標設定、中間報告、年度末総括で課題の共有を図った。企画調整会議では課題解決にむけた活発な議論があった。
- ⑤ 施設の老朽化については数年来生徒及び保護者の不満となっている。
夏期に大規模な空調の不調が発生したが、経営企画室施設担当と教務部が連携し迅速な対応を行い、教育活動を途切れなく維持することができた。
- ⑥ 経営企画室長のリーダーシップにより、新規採用職員、チャレンジ雇用職員を始め、全職員が一体となり学校を支えた。
- ⑦ 服務事故防止月間の研修の他、企画調整会議及び職員会議において過去の事例を基に理解を深める機会を設けた。入試業務前の打合せにおいては具体的な事例を基に、留意点の確認を行った。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

- ・本校の特色でもある探究活動については、2年次の課題研究がより深い探究活動となるよう、見直しを図っていく。8つに精選したテーマを基に外部機関との連携も視野に入れた探究活動を検討する。
- ・一人一人の生徒に応じた学習指導及び進路指導等が充実するよう、「定期考査採点・分析システム」・「統合型校務支援システム」の活用方法や本校における事例を共有し、組織的に活用を推進する。
- ・よりよい授業となるよう、時間講師も含めた授業担当者全員の授業参観記録データ及び授業評価アンケート結果の共有により、授業改善のポイントを明確化する。
- ・学習指導及び進路指導等において一人一人の生徒への組織的な支援が充実するよう、担任団、全ての教科担当者、スクールカウンセラー等で支援方針の確認を行う拡大学年会を実施する。

(2) 進路指導

- ・第一志望を目指し最後まであきらめず挑戦できるよう支援を行った今年度の進路指導の成果と課題について進路校内研修等で共有し、本校の進路指導について目線合わせを行う。
- ・教員の進路指導力及び学習指導力が向上するよう、模試分析概要及び各学年の進路指導等の実践について職員会議等で共有し見える化を図る。

(3) 生活指導

- ・本校生徒としての自覚と誇りともち行動するよう、生徒に問いかけ気付きを促し考えさせる生活指導を継続する。
- ・学校評価アンケートを基に教員と生徒とが話し合い、服装等の見直しを検討する生活改善プロジェクト(仮)を推進する。

(4) 特別活動

- ・学習と部活動とが両立できるよう、部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインに基づいた活動を行うとともに、自主学習時間の確保及び支援等の充実を図る。
- ・3学年0学期に向けた2学年2学期の行事等の在り方（修学旅行の実施時期等）について見直す。

- ・「1部活動一善運動」については、江戸川区役所や地域の小中学校等、地域との交流等をととして社会の一員としての自覚を養う取組を推進する。

(5) 広報活動

- ・体育館の空調機能を踏まえて、効果的な広報活動となるよう、取り組み内容及び時期について見直しを行う。
- ・本校の取組が十分に伝わるよう、ホームページ更新については学年、分掌、部活動に担当者を置き、確実に発信を行う。記事の掲載に必要な機器(カメラ等)を確保するとともに、掲載方法について校内研修を行う。
- ・発信→訪問→学校見学(説明会)→個別相談の順に集中的に活動を行う時期を設け全校体制で取り組む。

(6) 職場環境

- ・生活指導、学習指導及び自主学習に伴う業務について、時差勤務や勤務時間の変更により定時外の勤務の改善を図る。
- ・チューター制度、産業医面接に加え、アウトリーチ型相談事業を活用したメンタルヘルスケアを行う。
- ・生活改善プロジェクト(仮)の一環として、職員室環境改善事業に係る事業を活用した休憩室、面談コーナーの確保等やトイレ等の改修を行う。

3 重点目標達成状況

項目及び達成状況	目標	項目及び達成状況	目標
	結果		結果
① 生徒の学校に対する満足度 (肯定的評価)		学力検査による入選の応募倍率 C	1.5倍 1.17倍
学校生活の満足度 A	90.0% 90.0%	ホームページの更新回数 (部活・行事・進路等) A	200回 343回
進路実現に向けての授業への満足度 A	80.0% 82.0%	⑥ 文武両道の実現	
講習・補習への満足度 B	90.0% 86.0%	家庭学習時間 学年+1時間以上 C ※3年0学期平日103分、休日161分 既卒学年3年0学期平日84分、休日138分	100% 未達成
三大学校行事に対する満足度 A	85.0% 90%	英語実用技能検定2級以上取得生徒の割合 A ※ C E F R B 1レベルの生徒の割合 (卒業時)	85.0% 92%
② 生徒の希望進路の実現 (現役)		部活動加入率 A ※再集計中	95.0% 100%
国公立大学合格者数 B ※難関国公立及び医学部医学科8人 (昨年度4) 東大1、一橋大3、東京科学大3、信州大医学部1	100人 71人	勉強と部活動との両立に対する肯定割合 A	75.0% 76.0%
早・慶・上智・理科大合格者数 A	90人 84人	遅刻者数 (学校全体の1日平均) B ※前年度18.1人	3人 7.8人
学習院・明治・青山・立教・中央・法政大合格者数 B	300人 228人	地域貢献ボランティア活動へ参加部活動数A	25部 32部
進学率 B	92.0% 86.8%	⑦ 安心安全な学校づくり	
③ 大学入学共通テスト		特別支援教育に関する委員会の開催 A	10回 10回
大学入試センター試験出願率 A	95.0% 99.7%	SOSの出し方、生命尊重に関する取組 A	3回 3回
6教科8科目型の受験者 A	170名 167人	学校事故件数 B ※電源コードから発火1件 人的物的被害なし	0件 0件
得点率80%以上が受験者の半数以上の科目 C	5科目 1科目	⑧ ライフ・ワーク・バランスの実現	
④ 授業改善に向けた校内研修の実施		定時外勤務時間月80時間以上人数 C	30%減 昨年度並
授業に対する校内研修 (相互参観) への参加率	100% 100%	定時退勤2日以上的人数 C	50%増 昨年度並
⑤ 応募倍率の向上		職員会議・企画調整会議ペーパーレス化 A	100% 達成
推薦による入選の応募倍率 C	2.5倍 1.45倍	計画的な予算執行・センター契約率 B	55% 50.4%